

- (4) Adam Kochanski, 1955: Cross Sections of the Mean Zonal Flow and Temperature along 80°W, J. Met Vol. 12, No. 2.
- (5) 大塚竜蔵, 島田健司, 1955: 低緯度地方の上層風の垂造構造について, 研究時報, 第6巻, 第12号
- (6) 矢野直, 成瀬弘, 1955: 空気中の人工放射能性塵埃について——11月の放射能雨に関連して一, 天気 Vol. 2, No. 2
- (7) 有住直介, 1954: 降灰分布について (ビキニ水爆実験の気象学的調査第Ⅱ報), 気象集誌第2輯第32巻, 第9～10号
- (8) 大塚竜蔵, 島田健司, 1954: 1954年3月1日前後の低緯度地方の上層風の解析 (ビキニ水爆実験の気象学的調査第Ⅰ報), 気象集誌第2輯, 第32巻, 第7～8号 p 225～239
- (9) 気象研究所, 水爆被害調査グループ, 1954: 原水爆と気象, (第1輯) 1954年8月プリント
- (10) T. Wormell, 1953: Wind at Ionospheric Levels Survey of Recent British Work (Summary) Proceedings of the Toronto Met. Conference. 1953. pp 33～34
- (11) A. Crary, W. Kennedy and V. Bushnell, 1953: Atmospheric Winds and Temperatures at Heights up to 60km as Determined by Acoustical Propagation Studies, Proceedings of the Toronto Met. Conference. 1953. pp 9～13
- (12) U. S. Weather Bureau, 1952: Normal Weather Charts for Northern Hemisphere
- (13) H. Flohn, 1949: Die Planetarische Zirkulation der Atmosphäre bis 30 km Höhe, Berichtet, Deut. Wetter-dienstes in der U.S. Zone. No. 12. S 158
- (14) R. Scherhag, 1948: Wetter Analyse und Wetter Prognose, S. 72～77.

関西支部だより (その2)

【3】5月々例会

当支部の5月の月例会は「坊ちゃん」の町, 松山市で5月29日午前10時から開催された。会場は松山城のふもとにある愛媛県自治会館の講堂で, 当日のテーマは「防災気象」。瀬戸内海を控えた土地柄だけに, 当地では初めての開催にもかかわらず, 約70名の出席者があり, 午後5時頃まで熱心な討論が続けられた。当日の講演題目は次のとおりである。

午前の部 セミナール (10～12時)

- 1 An experimental study of eddy transports in the lower atmosphere (W. C. Swinbank)
紹介者 高知大学 上田 寿
- 2 Die methoden zur Bestimmung der Verdunstung der natürlichen Erdoberfläche (F. Albrecht)
紹介者 高知大学 瀬尾琢郎
- 3 Prevention of disaster caused by typhoons (Proceedings of the Unesco symposium by typhoons)

中の風に関する部門 紹介者 京都大学 光田 寧

- 4 同上 海に関する部門

紹介者 京都大学 瀬野錦蔵

午後の部 一般講演 (13～17時)

- 1 気象用レーダーの利用について
大阪管区気象台 大谷東平
- 2 土佐桂浜の波について 高知測候所 源 忠豊
- 3 伊予灘の海難 (愛媛県瀬戸内沿岸の波浪について) 松山測候所 井手一雄
- 4 大洲地方の霧について 松山測候所 大本四郎
- 5 備前瀬戸の霧について
高松地方気象台 吉野 格

- 6 肱川流域の大雨と水位 松山測候所 宮本一夫
- 7 徳島県の南東風について 徳島測候所 大坪敬吉
- 8 四国地方の鉄道気象災害
高松地方気象台 橋本義愛
- 9 長沢堰堤における洪水量について
四国電力株式会社 成松 寛

【6】6月々例会

6月月例会は「山の気象」の標題のもとに6月21日彦根測候所会議室で開かれた。参会者は滑川支部長, 大谷大坂気象台長始め, 京都大学, 大阪府立大学, 三重大学伊吹山測候所, 奈良測候所, 剣山測候所等で彦根市一般の聴講者はなかった。彦根着11時の国電で到着する人が多く, 彦根着と共に先ず井伊美術館, 彦根城を見学, 貸切バスで測候所に至り昼食を共にして13時過ぎに講演に移った。講演題目は次のとおりで, 皆現地経験者の調査結果の発表だけに参考になることが多かった。

1. 雪洞内の気象について 伊吹測 柳本三治
 2. 伊吹山における積雪の密度測定について
伊吹測 山中 稔
 3. 伊吹山の風について 彦根測 伊藤正幸
 4. 君ヶ畑台地の雨量解析 // 児玉良三
 5. 大台ヶ原山の「脊降」について 奈良測 更屋米蔵
 6. 大台ヶ原山の豪雨について
奈良測 西村 浩 三・松井 晋二
 7. 剣山の気象と予報への応用 剣山測 加藤 晁
 8. Orographic and frictional modifications of large-scale air currents (Dynamic Meteorology and Weather Forecasting by C. L. Godske, T. Bergeron, J. Bjerknes.) 京大 中島暢太郎
- 列車時刻の関係で最後の中島氏の紹介は大要にとどめ16時半に閉会, 貸切バスで彦根駅に急ぎ帰る人が多かった。(6月28日牟田記)